

南京都病院だより

No.74 2024.4

南京都病院

<https://minamikyoto.hosp.go.jp/>
編集：南京都病院広報委員会

Topics

南京都病院をもっと 知っていただくために

とくなが おさむ
広報委員会委員長(副院長) 徳永 修



当院の広報誌「南京都病院だより」を手に取り、目を通していただき、ありがとうございます。この広報誌は院内の広報委員会のメンバーが「少しでも南京都病院を知ってもらいたい」との思いを持ちながら、様々な意見を出し合って作り上げています。

残念ながら、当院は少し不便な場所に立地しており、また、多くの診療科を備えているわけではありません。しかし、限られた診療分野ではありますが、専門性の高い、良質で丁寧な医療を提供していると自負しています。地域の皆さんに少しでも当院の診療機能を知っていただくために、この広報誌以外にも、様々な方法で情報発信を行っています。

地域の医療機関の皆様を対象として、毎月第2木曜日の午後「地域医療連携セミナー」を継続して開催しています。院内各診療科の医師のほか、検査科や薬剤部、放射線科などのスタッフが講師を務めて、当院の診療機能に関わる情報発信を行っています。コロナ禍を経て、Webでの配信も行っており、参加して頂く先生方も徐々に増えてきました。テーマによっては医療機関だけではなく、訪問看護・介護事業所、教育機関などに対しても参加を呼び掛けています。

在宅医療に従事される方々を対象とした研修会も継続して開催しており、昨年度も当院が特に力を入れている呼吸管理・呼吸リハビリ、神経難病、そして医療的ケア児支援をテーマとした3回の研修会にたくさんの方々に参加していただきました。

さらに、地域の皆さんに当院を知っていただくことを目的に、昨年秋にはアルプラザ城陽において健康フェアを開催致しました。今年も6月に開催することを予定しており、広報委員会のスタッフを中心に準備を始めています。地域の公民館等にも積極的に出かけて、希望のテーマに沿った出前健康講座も展開しています。

そして、LINEを通じた情報発信にも力を入れています。COVID-19などの感染症の流行状況のほか、院内での様々なイベントに関する情報提供を行っています。

広報活動に関しては素人ばかりですが、院内各部署のスタッフが集まった広報委員会が中心となって、「南京都病院もなかなかやるな!」と思っただけのように、引き続き、様々な方法で情報発信を行って参ります。引き続き、よろしくお願い致します。

LINEの友達追加方法

LINEの『友だち追加』から

①ID検索 → @761jrnss



②QR検索 →



Event

院外向け研修会、健康教室を開催しました

地域医療連携室長補佐助手（経営企画係長） やしま くみ 八島 公美

1 結核研修会(看護師・コメディカル向け)

京都府結核アドバイザー事業の一環として、3月2日（土）に看護師・コメディカル等向けの結核研修会を開催しました。講演は13時から16時半までの長い時間にわたりましたが、内容も盛りだくさんであったため、あっという間に講演が終わったように感じました。



佐藤主任（臨床検査科）

外部から2名の先生を講師にお迎えしました。京都予防医学センター専務理事の鈴木克洋先生には「結核の基礎知識」というテーマでお話しいただきました。結核の歴史、結核の現状、そして服薬管理（DOTS）の重要性などについて学ぶことができました。また、京都府山城南保健所保健師の中田先生には「結核患者の発生状況と保健所の対応」というテーマでご講演いただきました。過去のデータから現在のデータまで、京都府の発生状況を丁寧に資料に纏めておられたのが印象的でした。

その後、当院スタッフが3つの講演を担当致しました。薬剤部塚本主任が抗結核薬について、臨床検査科佐藤主任が結核菌検査について、そして西5階病棟坂副師長が事例紹介を交えて結核の看護について講演を行いました。当院は結核病床があり、多くの職員が日々、結核患者さんへ対応しております。その現状について本講演を通じお伝えさせていただきました。

講演では活発な質疑応答もあり、参加されている皆さんが熱心に聴講されている様子がうかがえました。結核研修会は、医師向け及び看護師・コメディカル等向けとし、毎年2回開催しております。また、今年度もさらにアップデートされた内容で講演を行う予定としております。興味をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。



結核研修会の様子

2 健康教室を開催いたしました@今池コミュニティセンター

当院では、近隣のコミュニティーセンターや保健センターを会場とした健康教室も定期的に開催しています。今回は3月1日（金）に、今池コミュニティセンターにて講演を行わせていただきました。題して「本当はこわい！睡眠時無呼吸症候群」です。演者は各所で講演をされている角診療部長です。

我々が会場に到着する前から多くの市民の方が既に会場に着席されていました。そして「先生本日はよろしくお願ひします」と参加者の方ほぼ全員にご挨拶いただき、これは力を入れて講演を行わないといけな、と同行者の私も思った次第です。

講演が始まりました。角先生が用意されていたスライドはとてもわかりやすく、情報もたくさんありました。睡眠時無呼吸症候群と診断されると、CPAP（持続気道陽圧）療法がとても有効的で大切であることをお伝えできたのではないかと感じています。講演の後にもたくさんの質問もあり、「一人暮らしの方は、睡眠時無呼吸かどうかはどのように知ればいいのですか」との質問に対して、角先生から「病院（当院）で診断ができます。お気軽にご相談ください」との回答がありました。

たくさんの皆様にご参加いただき、また熱心に聴講いただき、本当にありがとうございました。今後も定期的に健康教室を開催していく予定です。ご希望があれば、当院地域医療連携室までお気軽にご相談ください。



健康教室の様子



角診療部長（呼吸器内科）

Topics

3日間のレポートミーティング（院内発表会）を終えて

つ い たかし
教育研修委員会 事務局（庶務班長） 筒居 敬

令和6年3月6日（水）から8日（金）の3日間に渡り、レポートミーティング（院内発表会）を開催しました。平日の時間外（17時30分スタート）にも関わらず、各日約90名の職員が参加する盛況となりました。

各日ポスター発表5題、口述発表8題の計13題の演題を発表し合い、演者は日頃の成果を存分に発揮する発表を行うと共に、参加者からも闊達な質疑応答が繰り広げられました。

厳正なる投票の結果、最優秀賞に西病棟2階 庄田看護師による「注入作成時間の短縮についての検討」、優秀賞に西病棟2階 高橋看護師による「短期入所チェックリストの改訂による効果～忘れ物をゼロにしたい～」、管理課 廣瀬係長による「広報活動報告～南京都をアピールせよ～」、リハビリテーション科 廣野理学療法士による「呼吸器疾患患者における理学療法の質の向上を目的とした当科の取り組み」の3題が選出されました。また、院長が選出する院長賞には外来 片岡看護師による「院内発生褥瘡の傾向と課題」が選出されました。



その他、各日に最も会場を盛り上げる質問（質・量ともに）をした参加者である、渡邊主任理学療法士、木村小児科医長、紀田外来看護師長には前院長の坪井先生よりベスト質問者賞が授与されました。

当院では、診療業務と共に、力を入れるべき大きな柱として教育研修と臨床研究を掲げています。患者さんにより良い医療を提供していくために、これからも病院職員一丸となって研鑽を積んでいきます！



地域連携 地域連携に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

こどもから大人まで、地域の専門家として
知識と経験に基づく医療を



児童精神科・精神科・心療内科
みずはらクリニック



院長 水原 祐起 先生



- 京都府宇治市広野町西裏1番16 サンマルシェ大久保内
- TEL.0774-48-3434
- <https://mizuhara-cl.jp/>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~13:00	○	○	○	/	○	○
15:00~19:00	○	○	○	/	○	△

休診：木曜日・日祝 △：14:00～17:00



令和5年10月に児童精神科・精神科・心療内科としてみずはらクリニックを開院しました、院長の水原 祐起です。

開院前も京都府立こども発達支援センター精神科にて、京都府南部の発達障害診療を担ってまいりましたが、クリニックでは引き続き発達障害の児童（小学生以上）や思春期青年期を専門として診療を行っております。こどもに限らず、その親御さんや一般成人の診療も受け付けています。

児童青年期の精神的な問題は、病気というよりは個人の特性と、環境との相性が良くないことで引き起こされます。そのため児童精神科医の関わりとは、こどもを正しい方向に「治療する」というよりも、その子の個性や得意なことを伸ばし、苦手なことで必要以上に自信を失ってしまわないようにすることと考えています。こどもたちが成長するにあたって過剰な努力を強いられたり、トラウマを受けたりするようなことが少しでもなくなるよう、地域の児童青年期精神科の専門家として、より多くの皆様により身近な距離で精神科医療や心理的支援を提供して参ります。

南京都病院の皆様には、様々なケースで今後もお世話になることがあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「意向」を大切に、
あなたらしい生活のお手伝い

ひしょう訪問看護ステーション

訪問看護(予防含む)理学療法士在籍あり

管理者 梶原 勇真



- 京都府城陽市寺田東ノ口17-192 (城陽市役所の目の前)
- TEL.0774-66-2614 FAX.0774-66-2624
- 営業日：看護師/年中無休 (24時間365日)
理学療法士/毎週水曜日 (3月末日まで)
4月より月～金曜日の訪問開始します。
- 訪問エリア：城陽市・宇治市・井手町・久御山町
- Mail:kango@hishouan.com
お気軽にお問合せください。
- <https://hishouan.jp>



令和5年11月1日に開設いたしました「ひしょう訪問看護ステーション」です。

「ひしょう」とはどんな意味ですか?とよく質問をいただきます。「ひしょう」とは「飛翔」という意味を込めており、ご利用者様の希望や目標に向かって、社員の夢や目標に向かって一緒に翔けるという意味を込めて名付けました。

理学療法士と看護師が力を合わせ、リハビリを提供することで「できなくなったこと」や「できないと諦めていること」を協力して叶えるお手伝いをさせていただきます。

また医療が必要で自宅に帰ることができない方や、帰りたいけど不安がある方の支援は、私たち看護師にお任せください。24時間365日訪問看護を提供しており、私たちの支援で自宅での生活が続けられるのであれば、最期の時まで寄り添い続ける覚悟を持っています。そんな事業所をスタッフ一同で目指しております。

入浴介助などの生活支援から酸素療法や褥瘡(床ずれ)処置、スタマ管理、ターミナル期(看取り看護)など、あなたが自宅であなたらしく生活するために必要な支援を提供いたします。

城陽市を中心に宇治市、井手町、久御山町の地域医療の発展と、みなさまの笑顔を増やしていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

Close
Up

認定看護師、特定看護師の紹介

当院には、専門性の高い看護師として「認定看護師」「認定看護師研修修了者」と「特定看護師」が計9名在籍しています。

「認定看護師」「認定看護師研修修了者」とは、その看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて、実践のできる看護師のことです。病院内で特定の分野に関する、「実践」「指導」「相談」の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献することを役割としています。当院では「慢性呼吸器疾患看護」、「皮膚・排泄ケア」、「認知症看護」、「感染管理」、「摂食・嚥下障害看護」の5領域7名が活躍しています。

「特定看護師」とは、21区分38の特定行為において、厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」により養成された特定看護師が、医師からあらかじめ作成された手順書（指示）に従い、認められた特定行為を行います。当院の特定看護師は、「呼吸器関連3区分6行為」が3名おり、主に気管カニューレの交換や、非侵襲的陽圧換気の設定変更など行っています。それ以外にも「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「精神および神経症状に係る薬剤投与関連」の2領域1名、「感染に係る薬剤投与関連」1名の特定看護師が活躍しています。

次回からそれぞれのスペシャリストの活動の紹介を行っていきます。



新採用職員の紹介

令和6年4月1日に南京都病院の新メンバーを迎え入れました。不安の中、4月1日から3日間の新採用者研修が行われ、国立病院機構や南京都病院について理解し、社会人としての基本的なマナー・接遇、コンプライアンスなど、働くために必要なことを学びました。

少しでも早く職場に慣れ、「私たちは、分かりやすく、安全で安心して受けられる質の高い医療を提供します」という南京都病院の理念に基づいた行動がとれ、信頼される職員に成長できるように支援を続けていきます。どうぞよろしくお願い致します。



